

令和2年度 事業計画

事業実施方針

日本銀行北九州支店が2020年3月9日に発表した管内金融経済概況では、「北九州・京築地区の経済は、基調としては緩やかに拡大している。ただし、足もとでは新型コロナウイルス感染症の影響がみられている。最終需要の動向をみると、公共投資は、堅調に推移している。輸出は、弱めの動きとなっている。設備投資は、製造業を中心に増加している。個人消費は、振れを伴いながら、緩やかに持ち直している。住宅投資は、増加が一服している。こうした中で、生産は、新型コロナウイルス感染症の影響により、足もとでは弱めの動きとなっている。雇用情勢は、労働需給が引き締まった状態が続いている。」としている。

こうした経済情勢の下、北九州港の2019年（1～10月）海上出入貨物取扱量は約8千204万トンで、2018年対比97%と微減している。

また、2019年（1～10月）コンテナ貨物取扱量は約44万7千TEUで、2018年対比82%と減少している。いずれも韓国への輸出規制、米中貿易摩擦等が要因と考えられる。

今後に関しては、内閣府の景気動向の調査「景気ウォッチャー調査」の基調判断によると「新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に厳しい状況となっている。先行きについては、一段と厳しい状況になるとみている。」と示されているように、厳しい情勢の変化に対応しながら景気の動向を注視しつつ、北九州港の活性化に結びつくよう、北九州港一丸となった一層の取組みが求められる。

当協会は、一般社団法人として法令に従い一層適切な法人運営に努めるとともに、北九州市、会員企業、海運港湾関係団体と協力し、また、関係行政機関の指導支援を得ながら、北九州港の振興活動や市民PR事業を積極的に推進し、北九州港ひいては地域経済発展に寄与していく所存である。

その取り組みとして

第一に、昨年度「みなとオアシス門司港」が134箇所目のみなとオアシスに登録され、当協会は、事務局として、みなとオアシス門司港運営協議会の運営及び地域住民の交流促進や地域の魅力の向上につながる取り組みを市と協力して実施する。

第二に、北九州港の機能発揮と利用促進のため、北九州港に関する最新情報の発信や物流・経済に関する研修会の開催、またクルーズ船の受入れや歓迎訪船の実施など啓発宣伝活動やポートセールス事業に積極的に取り組んでいく。

第三に、会員相互の交流や意見交換の場を提供する交流サロンの開催や海運・港湾事業従事者などの利便性を確保するための駐車場事業等を行い、会員向けサービスの向上に努める。

第四に、「未来へきれいな海・海岸」を引き継ぐために、北九州市・港湾関係団体と協力して港や海岸周辺の清掃及び啓発活動を実施する。

事業計画 事業項目名に続く（ ）内は実施予定時期

1 振興対策事業

北九州港の整備及び振興に資する事業を行う。

(1) 北九州港港湾調査データ作成業務（通年）

港湾事業者等から提供された申告書を規定フォームへ入力し、統計法に基づく港湾統計データを集計する。（北九州市からの受託事業）

2 啓発宣伝活動事業

年間を通して、様々な啓発宣伝活動を実施する。

(1) みなとオアシス事業

令和元年11月15日に「みなとオアシス門司港」が134箇所目のみなとオアシスに登録された。

北九州港において、地域住民の交流促進や地域の魅力の向上につながる取り組みを市と協力して実施する。

当協会は、みなとオアシス門司港運営協議会事務局を担当する。

(2) 北九州港セミナー（10月）

北九州港のPRと一層の利用を促進するため、荷主や船社などの北九州港のユーザーを対象に首都圏でセミナーを開催する。

- 主催 北九州港航路集荷対策委員会、(一社)北九州港振興協会ほか
- 開催地 東京

(3) 海外ポートミッション

海外の港湾施設を調査研究するため、会員を対象に視察研修を実施する。

- 訪問地 海外の先進主要港湾等
- 参加者 会員

(4) 記念品の製作・販売及び頒布（通年）

北九州港のPRを促進するため、北九州港のシンボルマークやマスコットキャラクター「スナQ」をデザインした記念品等を製作・販売し、イベント等で頒布する。

- 頒布品 タオル、缶バッジ等

(5) 歓迎訪船（通年）

歓迎のメッセージを伝え、北九州港をPRするため、初入港した船舶や新規航路の第一船などを対象に歓迎訪船を実施する。（北九州市との共同事業）

(6) 北九州ポート・アテンダントの活動

北九州港をPRするため、各種式典やセミナー、イベントなどの司会や歓迎訪船の花束贈呈などポート・アテンダントの活動を行う。

(7) 北九州港オリエンテーション（4月）

港湾業務の基本を学ぶため、会員企業の新入社員等を対象に、港湾や貿易などに関する研修講座と太刀浦コンテナターミナルなどの港湾施設の見学を実施する。

(8) 港湾整備事業説明会（6月）

北九州港に関する情報を発信するため、各年度の北九州港の整備事業や将来計画などについて、会員を対象に、国、市が直接説明する事業説明会を開催する。

■ 講 師 国土交通省九州地方整備局、北九州市港湾空港局

(9) 港湾セミナー

世界の港湾の最新情報や物流動向、関連する経済情勢などを学ぶため、会員と市民を対象に講演会を開催する。

(10) 北九州市からの受託事業（通年）

北九州港の役割や海辺の魅力などを市民に周知するため、様々なイベントを通して積極的な情報発信を行う。

①クルーズ船受入事業

ア ひびきコンテナターミナルへのクルーズ船寄港時全体管理・運營業務

クルーズ船が寄港する際に以下の業務を行う。

- ・クルーズ船受入れにかかる事前事務及び連絡調整
- ・クルーズ船寄港時の受入対応本部の運営及び連絡調整
- ・クルーズ船寄港時の緊急対応及び連絡調整

イ 門司・西海岸へのクルーズ船寄港おもてなし等業務

クルーズ船寄港による港周辺の賑わいづくり及び北九州市の魅力乗客等へ広くアピールすることを目的とした、入出港時の歓送迎イベント及びおもてなし、歓迎式典を行う。

②北九州港・みなとまちづくり事業

北九州港の魅力や様々なイベント等を通じて広く市民に周知するとともに、人々が集い、賑わう海辺づくりを図る。

ア 船舶公開業務

市民に海や港への理解を深めてもらうため、北九州港(門司区西海岸)に独立行政法人海技教育機構練習船を招聘し、船舶一般公開を行う。

イ 寄港記念イベント等業務

北九州港に寄港する独立行政法人海技教育機構所属の練習船に対し、寄港記念イベント等を実施して、歓迎の意を表するとともに北九州港をPRする。

ウ 北九州港マスコットキャラクター「スナQ」を活用した広報活動等業務

「スナQ」ブランドを活用した情報発信及び市内各種イベントへの参加を行い、ソーシャルメディア等を活用し、北九州港のイメージアップを図る。また着ぐるみの貸出し業務等を行う。

(11) クルーズ船寄港定着化事業

北九州港へのクルーズ船寄港定着化を図るため、九州クルーズ振興協議会等に参加し、活動を行う。

また、下関港と連携した「関門港クルーズ振興協議会」の事務局を担当するとともに、関門港に寄港するクルーズ船を利用した旅客等に対する観光資源の情報発信事業等を行い、クルーズ振興を行う。

(12) みなと見学会

物流拠点としての港と日常生活のつながりを理解するため、市民を対象に倉庫等の見学会を開催するとともに、太刀浦コンテナターミナルの見学ガイドを行う。

(13) 「海の日」協賛会の行事(7月~11月)

海事海洋思想を普及するため、関門港ポート天国、海事功労者表彰式典、海の写真展、絵画コンクールなどの行事を開催する。

当協会は「北九州・海の日協賛会」の事務局を担当するとともに、次の事業を実施する。

- ①ウォーターフロントクリーンマナーアップ作戦
- ②花火大会(くきのうみ花火大会、海峡花火大会)への協賛等

(14) 海の日・海峡クルージング(7月~8月)

北九州港の役割や海辺の魅力などを周知するため、市民を対象に、大型フェリーを利用して、関門海峡の体験航海を実施する。当協会は実行委員会の事務局を担当する。

(15) 定期刊行物の発行(通年)

北九州港に関する情報発信とPRのため、会員及び市民等に向けて定期刊行物等を発行する。

- ①機関誌「北九州港」 年1回 1000部
- ②北九州港ニュース 年6回(偶数月) (オンライン)

(16) ホームページ（通年）

北九州港に関する情報発信とPRのため、ホームページを更新管理する。

3 港湾関係共益事業

船員、港湾労働者をはじめ海事・港湾関係者のための福利厚生事業を実施する。

(1) 戸畑船員サービスセンターの管理運営

海事関係者の利便性の向上を図るため、戸畑船員サービスセンターを管理運営する。

(2) 港湾振興協会等事務連絡会（11月）

港湾振興に関する共通課題の検討や情報交換などを行うため、国内主要港の港湾振興団体の連絡会に参加する。

■ 参加港 東京、川崎、横浜、名古屋、大阪、神戸、北九州、博多

(3) 交流サロン

当協会の役員・会員相互の交流と意見交換の場を提供する。

(4) 国際ビジネス支援事業（6月～11月）

国際化に対応する人材を育成するため、会員を対象に貿易実務や語学の講座、国際法務セミナー等の研修会を開催する。

(5) 新年賀詞交歓会（1月）

新年を祝い、北九州港の発展を祈念するため、海運・港湾7団体（関門港運協会、小倉地区港運協会、洞海港運協会、八幡港友会、九州水曜会、門司エーゼント会、当協会）の共催で賀詞交歓会を開催する。

4 港内美化事業

未来へきれいな海、海岸を引き継ぐため、港湾関係団体と共同で清掃活動等を実施する。

■ ウォーターフロントクリーンマナーアップ作戦（再掲）など

5 駐車場事業

海運・港湾事業従事者や観光客などの利便を確保するため、北九州市から未利用地等を借地し、有料駐車場として管理運営する。